

令和3年1月15日

保護者 様

いわき市立大野中学校長 田中 淳一

令和2年度 学校評価結果のお知らせ

厳寒の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、過日ご協力いただきました学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。

なお、本結果は、今後の学校経営・運営に活かしてまいります。

◎ 保護者及び生徒アンケートの主な結果と今後の取組

* アンケート結果の詳細は、裏面にあります。(A・1：当てはまる、B・2：どちらかといえば当てはまる、C：どちらとも言えない、D・3：どちらかといえば当てはまらない、E・4：当てはまらない)

- (1) 「新聞を読んでいる」と答えた生徒は1割程度、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」生徒は4割である。今後学校では、中学生新聞などを活用し、社会的事象について関心を持てるような機会を設けるとともに、地域や社会の問題を取り上げ、探究していくような学習を重視したい。
- (2) 「読書が好き」な生徒は6割程度である。今後学校では、読書活動や図書館経営の充実によって、生徒が多様なジャンルの本と出会う機会を増やしていきたい。
- (3) 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒は5割程度である。今後学校では、家庭学習を充実させるために、生徒に提示する学習内容を工夫したり、各自に応じた学習の仕方を指導したりしていきたい。
- (4) 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は5割程度である。今後学校では、学ぶ楽しさを実感できる各教科等の授業づくりに努めるとともに、生徒が他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく活動を増やしていきたい。
- (5) 「信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合う関係を築いている」生徒は8割程度である。今後学校では、ある程度の重さを持った関係性や経験を通してこそ、人間の根っことなる資質は育つとの認識のもとに、生徒同士がよりよい人間関係を築いていけるような環境づくりに努めたい。
- (6) 「自分には、よいところがある」と答えた生徒は5割程度、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた生徒は4割程度である。今後学校では、多様な世界(ヒト、モノ、コト)との関わりを通して、生徒の自尊感情や自己有用感を育むように努め、未知と向き合い、克服できるような資質の育成につなげていきたい。
- (7) 「教員は、教科等の専門的知識や技術を身に付けており、授業を通じて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を十分に育んでいる」と答えた保護者は8割である。今後学校では、人間を育てる専門職としての教員の矜持を大切にして、その重責に応えられるような研修を日常的に行っていきたい。
- (8) 「学校は、次代を担う生徒にとって何を優先すべきかを見定め、時間を最も効果的に配分し、生徒・教職員が可能な限り短い在校(活動)時間で、教育の目標を達成する成果を上げられている」と答えた保護者は8割である。今後学校では、自校の実態に基づいた、組織マネジメント(人・物・予算・情報・時間・ネットワークの活用)とカリキュラム・マネジメント(教育課程の編成・実施・評価・改善)を適切に行い、生徒・教職員が心身共に健康で、学んだり勤務したりできるような学校経営・運営に努めたい。